

認知言語学・語用論の知見を英語授業に活用する研究

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 国際コミュニケーション学科

准教授 中谷 博美

研究分野：認知言語学、語用論、英語教育

認知（ものの捉え方）がどのように文法に反映されているのか（＝認知文法理論）、語用論とは、発話（何かを言うこと）が会話においてどのような意味を持つのか（＝語用論）を実際の会話に基づいて研究してきた。この認知文法理論および語用論の研究成果を、英語の授業において、教師がどのように活用すれば学習者の第二言語習得に貢献できるのかを研究する。

■文末表現のマルチモーダル分析

英語の付加疑問文について、研究を進め、昨年度はアジア諸言語への応用を試みました。文末表現の意味分析において、不可欠な要素となるイントネーションについて、今年度は研究を進める計画です。先行研究では、典型例である上昇調と下降調のみが説明されていますが、実際の例文では、下図のように付加部の音声は平坦である場合もあります。

この例文は、映画ハリーマジックの一場面です。誕生日のお祝いに来たハグリッドに対して、ハリーはかねてからの疑問を突き付けています。（前のシーンでハリーは自分の額の傷がヴォルデモードによってつけられたと知る。）

イントネーションが平坦で次の台詞との間がないことから、聞き手にすぐにターンを渡す意図がない（疑問ではない）ことがわかります。また、話し手は発話の間ずっと聞き手に視線を向けているが、聞き手は話し手に視線を向けるがすぐにそらしています。このことから、聞き手にとって都合の悪い情報であり、返答しにくいことだとわかります。それゆえ付加部によって返答なしでも話し手の推測が事実であることを共有し、かつ談話を促進させようとする意図が読み取れます。付加疑問文の意味は、イントネーションや視覚情報など非言語的要素を統合したマルチモーダル分析によって解明されると言えます。

HAGRID: You all right, Harry? You seem very quiet.

HARRY: He killed my parents didn't he? The one who gave me this.

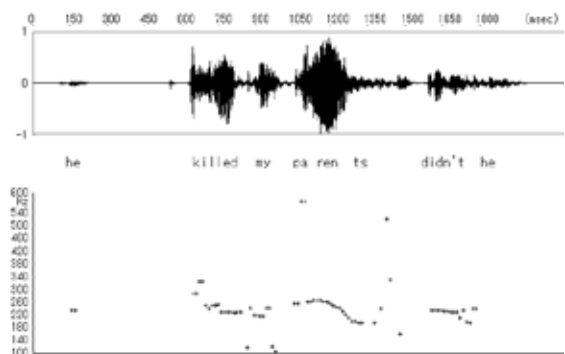
You know, Hagrid. I know you do.

HAGRID: First, and understand this, Harry, because it's very important.

Not all wizards are good. Some of them go bad.

A few years ago, there was one wizard that went as bad as you can go.

And his name was V-. His name was V-.



<例文出典>

Heyman, David (producer) and J.K. Rowling (original author) (2001) *Harry Potter and the Philosopher's Stone*

<音声分析>

杉藤美代子(2000)SUGI Speech Analyzer. 富士通アニモ

■映像教材の応用に関する研究

前年度に引き続き、映像教材を活用した指導法について研究を進めています。英語学習において授業で用いるのに効果的な例文を含む映像の提示方法について、前述のマルチモーダル分析を活かして考案します。